

“動” “教” “参加” “の年”

会長 鈴木 龍成



明けましてお目出とうございます。皆様お揃いで良き年をお迎えのことと存じます。

昨年は、平成十八年の「千代田岳精会創立二十周年」を通過して新たな一歩を踏み出した年であり、それ故「新らしさ」と「変化」の多い年でありま

岳精流日本吟院

あちよあ

第 3 0 号

平成 2 0 年 1 月

千代田岳精会弘報

平成二十年度岳精流指標

ありがとう

した。

年明け早々から、新体制のもと「会員二〇〇名実現」を目標として取組み、これを見事達成し、「温習会」の盛り上がりを実現しました。既存の教場の充実、強化とともに、新たな拠点（分室、分教場、吟詠クラブ等）が五か所誕生し、活発な活動を始めています。この様な動きの中で、平成十九年中に会にお迎えした新しい仲間には、実に四十三名（十一月現在）です。誠に喜ばしい限りです。

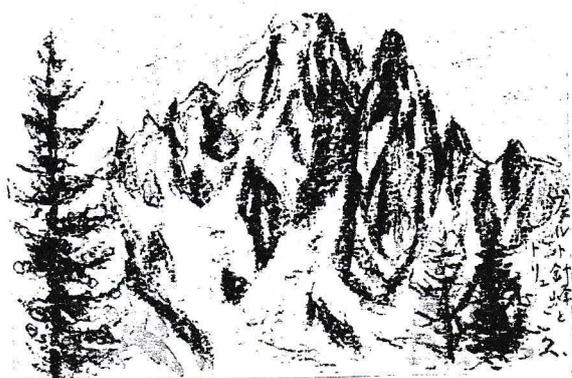
さて、こうした活発な活動のもと迎えた平成二十年は、私どもにとってもどのような年にすべきか、如何でしょうか。私は、第一に「動」の年でありたいと思っております。教場の活発な活動はもとよりですが、それを構成する吟友一人ひとりの積極的な参加意欲と参加行動が展開される年でありたいと願っております。「今度こんな集まりをもったら？」とか「あそこに吟のクラブが出来ないだろうか？」など、情報の流れが「動く」年にしたら如何がでしょうか。こうした「動き」の中から「拠点」を中心とした新たな千代田の活性化が図られるものと信じます。

第二に「教えること」によって学ぼうという事です。現在、当会には師範資格を持った方が七十二名いらっしゃいます。この方々は立派な実力と経験

を重ねてきているのです。その力を色々な場面で発揮していただきたいと思えます。教場での切磋琢磨の場で、はたまたチャンスがあれば地域などで、「教える」機会をつくれないでしょうか。

第三に、会の幅広い活動への積極的な「参加」です。会には以前からある「詩歌研修」「演奏研修」に加え、昨年からは「剣詩舞研修」「歌唱研修」の二つがスタートしました。それぞれが本来の吟習熟に資するもの大と思えます。まさに幅広い「吟活動」といえ、会員の皆様が、積極的にこれらの研修活動にも参加されることをお勧めいたします。

今年の子年。干支にまつわる中国の古典でも、牛の頭に乗って十二支競争に一番乗りを果したとか、鼠はとかく要領のよさのみ印象づけられますが、「ねずみ算」に象徴される「良きこと多かれ」の年であってほしいと願っています。



星野久山（清水）

廿年度千代田岳精会組織 着実な世代交代進む

創設二十年を機に鈴木会長の就任、組織の若返りが進められ、十月一日付で神田教場長に池田康山さんが任命され、今回新たに次の方々が任命されました。

◎教場

神田教場長

池田 康山

(十九年十月一日付)

丸の内第二教場長

山口 隆山

全 副教場長

八田 玉山

全 日暮里分室長

本多 弘山

東陽町教場長

菊池 駿山

全 副教場長

前田 道山

全 銀座分室長

本荘 麗山

清水教場長

宮武 保山

神田副教場長

村井 蓉山

全 用賀分室長

大竹 霞山

◎部門リーダー

研修部門 剣詩舞担当

松尾 洋輔

事業部門

菅原 克風

吟楽部門

二宮 祥山

(ハザマ)

(ハザマ)

(二十年一月一日付)

教場長就任のご挨拶

神田教場長

池田 康山

林龍吾前教場長から、突然お話があったのは、十月一日当日のことでした。

吟歴からしても、まだ若輩、どうして私にと自問自答、迷いました。しかし、林先生からは「これから指導手順、吟題など何でもアドバイスしますよ」との確約を頂き、お引き受けを決心しました。

千代田岳精会は、平成十八年秋の二十周年記念大会の開催を期に、一挙に幹部の若返りが進みました。神田教場にも、新しく用賀分室が開設されました。まず両教場の会員さんの相互交流を活性化させ、今後の教場の充実、会員拡大に繋げて行きたいと思えます。

教場長新任にあたり

丸の内第二教場長 山口 隆山

新年度から岩崎教場長の後を受けて丸の内第二教場長を務めることになりました。

前教場長は千代田岳精会の最高の指導者であり、私も平成十年入会以来、ご指導を頂きました。その後任の教場長として、まだ自信も力もありませんが伝統ある丸の内第二教場が、更に立派に成長するよう頑張りたいと思っております。今後引き続き諸先輩のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

今回、副教場長となる八田吟友と共に、その決意を述べ、新任の挨拶と致します。

教場長を拜命して

東陽町教場長 菊地 駿山

飯田精鷹先生が創設、以来廿余年の

歴史の重みと二〇〇名の大台実現を体験した中、この度東陽町教場長を拜命いたしました。

私達を辛抱強く育み、今日の東陽町を盤石なものにされた磯田初代教場長、組織の拡大に尽力された耳塚前教場長と副教場長の方々のご苦勞を伺います。時、非力な私としましては、その責任の重大さを痛感いたしております。

新年度、前田・花山副教場長、各部門担当の方々と共に、今後「更上一層楼」を吟じ味わいながら教場の発展に全力を上げて取組んでまいります。

清水教場長に就任して

清水教場長 宮武 保山

このたび村上前教場長からバトンを受けました。一昨年、中伝準師範の認許を頂いたばかりの未熟者ですが、教場の吟力向上と発展のために些かなりともお役に立てればと精進いたす覚悟でございますので会長はじめ諸先生がたのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

当教場は平成八年十月に産声をあげ、十一年に亘る前教場長の勝れたりりーダシップの下に飯田・磯田両先生をはじめ多くの先生方のご指導を受け、在籍会員廿二名を擁するまでに成長して参りました。今後の吟力向上の為には、一人一人の研鑽はもとより常に美しい教場合吟を心掛けたいと思えます。先ずは初心に立ち返り、近い将来の十五周年を一同健やかに迎えたいものです。

吟友の輪二〇〇名達成

温習会いきいきと力づくよく

山「伊藤浩山
(錬水)先導
であつた。
会場「南大

今年の温習会は、鈴木会長の「二〇〇名祭り温習会」の意向を受け年初から各教場で独創的に会員増強に取り組み、九月一日で見事在籍二〇〇名を達成。その熱気の中で開催された。

十月一日新任の池田康山神田教場長先導の会詩合吟で始まり、教場毎合吟、教場長吟詠、特別壽栄者吟詠、研修担当発表、十九年度吟剣コンクール入賞者吟詠、昨年武道館優勝の女子、本年度出場の男子吟詠、教場毎企画吟詠と多彩なプログラムから幾つか拾うと、鑿鑿として登壇された特別壽栄者の方々は先導の湯山申山さん(清水)をはじめ廿二名。研修担当として初発表の剣詩舞の五組の見事な舞い、詩歌の神田教場田中宏明氏の講演「月と詩人達」難曲「舟艇守の尺八」に挑戦の演奏部門、多岐に亙り特色がよく現れていた。教場毎企画吟詠は夫々のカラーで興が尽きなかったが特筆されるのは、錬水の「ものものふ・武士」で千代田温習会で初めて真剣による居合・試切りが舞台上で岩本行山副教場長により披露されたことだろう。特に返した二の太刀の切れ味は見事の一言でした。

塚ホール」は会員数二〇〇名に丁度よい廣さだが、大変な盛上がり親の懇親会場ラパスホールはもう手狭で来年の課題に残された。

試し斬りをご披露して

錬水副教場長 岩本 行山

今年の温習会の教場企画吟を、何か考えろと教場長から命令され、試し斬りを入れた幕末の武士をテーマとしました。五言絶句吟では、試し斬りに合わず、短歌の時に巻藁を斬ることにしました。

私達の子供の頃の遊びと言えばチャンバラ、ヒーローは快傑黒頭巾です。白馬に跨がる乗馬は、もう廿年。ただ通うのに遠く、車の渋滞にも嫌気がさして、段々縁遠くなりしましたが、居合の会は自転車で三十分、毎週土曜の午前中、これなら続けられると始めたのは三年前です。

正座をし黙禱して心を静め、刀に礼をして、白刃を一気に抜く。まさに武士魂の目覚める一瞬です。座技は正座の状態から抜き、納刀後立ち上ります。これが良い運動になります。冷暖房の無い体育館で、夏の暑さ冬の寒さの中の稽古を続けて今ようやく三段です。

会では二、三ヶ月に一度、試し斬を行なっています。最初は会の真剣で斬っていましたが、だんだん自前が欲し

くなり、昨年退職金をはたいて自分へのご褒美として「安忠」という銘刀を購入しました。

裏庭に棒を立て、巻藁を刺して数多く試し斬りし鍛練しました。お陰で温習会では緊張することなく、藁に集中できて無事切り落とすことが出来ました。二太刀目の逆袈裟の抜き打ちは、実は四段以上に許された技なのですが、練習時の成功率七割を省みず、挑戦しました。無事切り落とすとしてホッとしましたのが本音です。



岳精流全国吟詠コンクール大会

三月十五日(土)サンワークかながわで開催され、千代田は会員数二〇〇名以上で八名が出吟することとなり、次の方々が挑戦される。

- | | | |
|----|----|-------|
| 池田 | 康山 | (神田) |
| 伊藤 | 浩山 | (錬水) |
| 青木 | 恭山 | (草加) |
| 山手 | 遙山 | (丸女) |
| 加藤 | 有泉 | (新宿) |
| 城戸 | 稲風 | (ハザマ) |
| 渋谷 | 辰山 | (東陽町) |
| 宮武 | 保山 | (清水) |

寿栄の部

昇伝者及び師範・準師範合格者
お目出とうございます(略敬称)

奥伝

東陽町

八尾 葉風

清水

大槻 鈍風

ハザマ

城戸 稲風

奥伝師範
中伝準師範

丸の内第二
丸の内第一

勝田 賢風

東陽町
錬水

永岡 詠山
伊藤 浩山
池田 幹山
越村 梢山

奥伝審査に合格して

清水副教場長

大槻

鈍風

此度、奥伝審査に合格致しました事、誠にうれしく思っています。

奥伝の審査に合格したと言うことは、可成りの吟歴を持った、そして相当な吟力を持っている者として見られるわけです。

所で自分の吟は、岳精流奥伝保持者の吟として本当に通用するものであるうか。吟を始めてから十三年になりませんが、今の所胸を張って誇れるようなそんな吟をうたう自信はありません。教場で教場長の模範吟をテープにとつて、自分の吟のテープと比べておりますが、常にその落差を感じております。即ち自分の場合声に清涼感が無い、濁っている。かすれと節調乱れが生ずる。転句の高音部の音程が狂う、等々であります。従って吟じ切った時、うまく行ったと言う満足感がありません。

家元は言っています「人、夫々親から貰った声があり、その声を大事にして自分の吟を仕上げなければよい」と。また、或人は言っています「声も劣化するが長く吟に親しんで来た人は何とも言えぬ燻し銀の味がある」と。そして自分には思いますが「今更、家元や宗家と比較して自分の吟を云々する事は、ご両者に対し失礼な話、身の程をわきまえよ。自分の声に悩む事等愚の骨頂だ。奥伝の称号は自分の胸に仕舞って、自分の未熟な所は今後の努力で徐々に克服して行けばよい。今迄通り吟を楽しみながら年輪を加えて行けばよいのだ」と。

奥伝審査を受験して

ハザマ教場長

城戸

稲風

会社の先輩に誘われて、退職を契機に入会して十二年になります。その間約二年間、病気等で練習を中断しましたが諸先輩、吟友に助けられ今回、奥伝審査を受審でき大変感謝しております。

当日は、実技で審査員は石川精孝先生、杜甫作「復愁う」を吟じました。講評は声はよく出ているが、ゆり止めをもっと軽くとめる様注意され、今後の課題となり反省の一日でした。今年一月から教場長として吟の指導にあたっています。指導する事の難しさを痛感しておりますが家元先生の「吟はいつもこれからだ」の教訓を十分にかみしめて、これから奥伝の名を汚さない様吟力の向上と流統の基本を

正確に修得し、また後輩の指導や吟道の発展のため努力していきたい。

続くご縁に導かれ

東陽町副教場長

赤根

惇風

吟との縁は、入社七年目に初めての地方勤務の富山支社での磯田氏、川崎支社での岩崎氏、松江支社の飯田氏、そして美人吟士の故平井氏などとの出会いでした。その場所は小生の最後の職場であった東陽町。そのこの喫茶室に時折、残業帰りで定年間近の小生が立寄り、楽しく定例会後の慰労会の各氏と杯を交わすことになれば吟道へ進むのは当然のこと。平成七年の定年と共に入会し、翌来十二年。よく続いているもの！前記三氏を始め仲間がいろいろ！一方、明治生命の人社は、学生時代の七年間ラグビーに精進した結果、故加藤福太郎氏(元金沢支社長、当時の立大ラグビー部監督)の推薦での幸運。本社での六年間は酒を教わり、飲めば「民衆の酒、焼酎」を絶唱！週末はラグビー一筋、この時点でラグビー歴は十三年。今年は大学の立大、社会人の明治安田ともに今一つ振るわないのが残念なれど仲間はいい。忘れられないのは、平成十四年の暮、高校時代の仲間夫婦五組と北京、西安、洛陽、蘇州、上海の中国旅行。中国文芸に詳しい仲間の一人から、出発前に杜甫の「春望」王昌齡の「芙蓉楼」辛漸を送る、張継の「楓橋夜泊」の詩文が配られ、赤根の熱唱を楽しもうとの事。特に六日目の蘇州観光では寒山

寺の「月落ち烏啼いて霜天に満つ…」の石碑の前で全員で斉唱（小生の独吟ぎみを反省）し参拝客多数から拍手を頂いたのは、最高の思い出となった。（ラグビー、詩吟奥伝万歳！）

奥伝審査を受験して

東陽町 八尾 葉風

十一月三日、川崎の日本溶接センタ
Iでの奥伝審査を受験しました。磯田
先生のお勧めで東陽町教場に入会して
から十三年余、才能の無さに何度も止
めようかと思つたこともありましたが
回りの吟友の励ましと支えで、よくぞ
ここまで来たものと感慨一入でした。
審査会は昼過ぎに定刻通り開会、冒
頭、家元のご挨拶があり「指導者を育
てて欲しいとの熱の入ったお言葉が印
象に残っています。次いで宗家よりの
注意事項等のお話があり、いよいよ石
川先生と園田先生による吟技の審査で
す。

岩崎先生の特訓とともに、毎朝声を
出している練習の成果なのか、少しは自
信もつき、指定された「山中の月」を
絶句することもなく吟ずることが出来
ました。勿論、細かなところまで、ご
指導を頂き、大変有意義な審査を受け
ることができました。

最後に、ここまでご指導を頂いた諸
先生に感謝の意を捧げるとともに、宗
家のお話の中に「この審査を通じて大
きな年輪を造れ」のお言葉の通り、大
きく前進の出来た奥伝の審査会でした。

準師範を受験して

東陽町 永岡 詠山

詩吟を始めて九年目、準師範を受験
しました。とは言うものの試験の傾向
も判らず不安でしたが、鈴木会長や徳
本会長補佐、他の方々から懇切丁寧な
ご指導を受け、一応不安を払拭し受験
しようやく合格出来ましたことご指導賜
わった皆様に感謝しております。

ここまで挫折することも無く、上っ
てこられたのも、磯田、岩崎両先生を
始め諸先輩方の暖かいご指導があつた
ことと教場の諸先輩方の詩吟に対する
あつてのことと感謝しております。

準師範の資格を取得できた喜びと、
反面果たしてこれから準師範としての
実力を伴って行けるか、不安もありま
すが、詩吟の奥深さ、難しさを思うと
もっと自分を磨き精進しなければと、
身を引き締めて行く所存です。

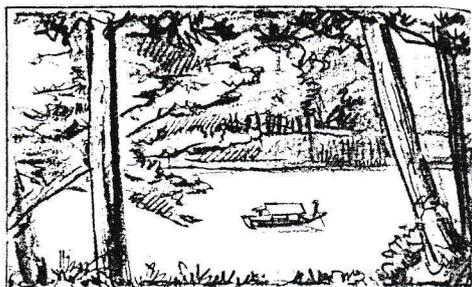
準師範の心構え

丸の内第一 木村 誠山

一、心構えと詩吟を楽しむ人生
勉強会は週一回 練習は毎日精進を
積み重ね、熱意・努力・あくなき執念
で一つ上を目指す

自分を鍛える事を目途とし徒歩教場、
自転車教場、風呂場教場等でいつでも
どこでも自然体として常に向上心を組
成し日々、吟を口ずさむ生活が有効活
用を生み、自分にとっての吟楽であり
その蓄積が充実感・達成感を味わえる、
至福の人生を過ごしている。

二、詩吟の輪を広げる仲間作り
地域の中に「詩吟」は知っているが、
実際に詩吟の内容はあまり「認識」さ
れてないという年配者層が多勢おり
【健康増進】 【不老長寿の妙薬】 【知
的趣味向上】を《金看板》として掲げ
《詩吟という魅惑の世界》に誘い込み
たいと念ずる次第であり、私の実践活
動では「さいたま市シルバード大学岩槻
校」で昨秋文化祭で詩吟を発表し、
初めて生の詩吟を聴く事が出来て感激
したという学友作りをし 《詩吟同好
会》を立上げたいと存じますが、この
自信の裏打ちとして、先日受験出来た
『準師範試験』であり、副幹事長大矢
精祐先生による面接では脳裏が真っ白
になり自分が恥ずかしい程緊張してし
まいました。一応及第点を戴き、
『準師範合格』と大熊教場長の黄金色
に輝くお言葉に丸の内第一教場での長
い道程の中で諸先輩・同僚各位のご指
導に感謝し、岳精流流統の一層の発展
を祈念し精進を重ね、粉骨砕身頑張る
所存であります。



夏期師範特別研修

八月廿六・七日熱海温泉ホテル大野屋に全国より岳精流の中核をなしている三二一名の準師範以上の会員が参加して開催された。

総本部より、遠隔の地で活躍の会員にとり、このような家元・宗家より直接講義と吟詠指導を受ける機会は数少なく、また全国の吟友と交歓の場としても全国吟道大会と並び参加者にとつて貴重な機会だ。千代田からは四〇名が参加したが、二日目の表彰式では会員増加優秀会として表彰された。加えて「吟友の輪プロジェクト活動について」担当副幹事長磯田精信常任顧問が講演され出席者に強い印象を残すなど千代田が注目された研修会であった。直後の九月一日、我々は年初の目標「会員二〇〇名」を達成したが、今後とも新会員が気持ち良く学べる受入れ体制作りを怠りなく進めたい。

心の友との交流

清水 寺沼 智山

私にとっては初の研修参加でしたが、この歳になって改めて人が生きる意義・尊さを思い知らされました。三〇〇名を超える方々との交流があり、心の友がこんなにも多く……と言う思いで、嬉しく力強く思われました。家元のお話から、溢れる気迫と人との出会いを大切にされる豊かな情愛が

感じられました。この国に生れ育ち、誇り高く吟ずる喜びの原点がここにあり、家元と木村岳風師と丘灯止夫先生に繋がる日本の心を懐かしく思います。拙い私の吟との出会いは、水戸東武館での剣道の稽古の締めが続いて、竹刀を上げての「川中島の戦」や「正気の歌」の合唱でした。東武館は、北辰一刀流新田派として多くの子弟を擁していました。昭和の初め岳風先生の壮年頃で、やがて舟木一夫が「高校三年生」で世に出、丘先生と家元の深い絆が結ばれたと思えますが、私としてもこの長い人生の中の美しい流れに身をまかせていられることの幸せを沁々味わっています。家元有難うございました。続いて、力強い宗家の指導をいただきました。発声時の口の開け方、ゆり上げ下げ時の微妙な声の味などをじっくりお聞きし、今後の更なる努力研鑽を誓ってお開きとしました。家元・宗家に深くお礼申し上げます。ともに、会場設営・運営に当たられた諸先輩に心から感謝致す次第であります。

研修担当年間計画

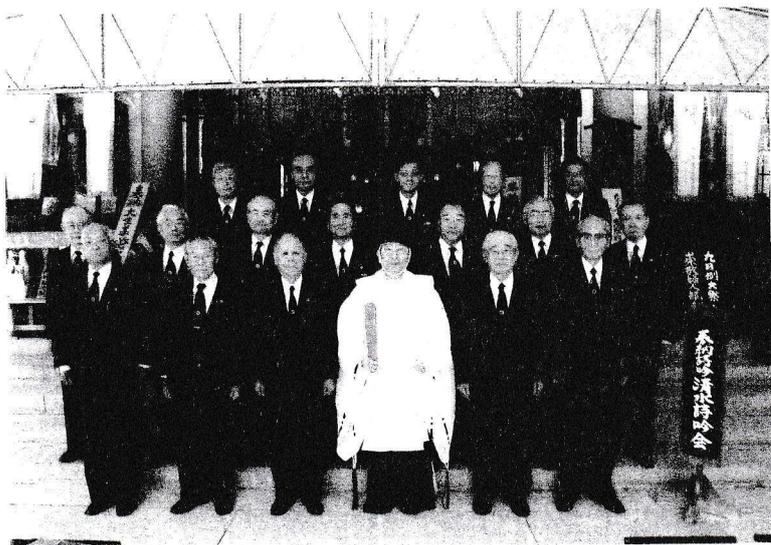
- ◎ 詩歌研修
- ◎ 歌唱研修
- ◎ 一月から月一回開催されます。
- ◎ 剣詩舞研修
- ◎ 一月から基本的に第一・三月曜日。
- ◎ 演奏研修
- ◎ 二月から前、中、後期各三回計九回基本的に第四水曜日。

『教場たより』

芝大神宮例大祭奉納吟

清水 星野 久山

芝大神宮の秋の大祭が九月に開催された。十一日間にも及ぶため「芝明神のだから祭り」とも呼ばれている。今年の本祭りとあって「神輿渡御」踊り大会「こども囃し」は勿論、「奉納舞楽」「奉納狂言」「奉納太鼓」など各種催しが大に行なわれた。清水教場は、月二、三回大神宮の参集殿をお借りして練習をしていることから、今回詩吟を奉納することになった。



十八日の午前、午後の各三十分間、「日本の心を詠う」をテーマとして拜殿で全員が真剣に吟じた。前後に「松竹梅・松口月城」「富士山・石川文山」の合吟を挟み、短歌「天の原・阿倍仲麻呂」「九月十日・菅原道真」「潮来の夕・角光嘯堂」「九月十三夜陣中の作・上杉謙信」「風林火山・武田信玄」(歌唱共)「甲斐の客中、荻生徂徠」(時に憩う・良寛)俳句「たふとさに・芭蕉、たくほに・良寛」「偶感・西郷南洲」「弘道館に梅花を賞す・徳川景山」「金州城下の作・乃木希典」「刈干切唄(民謡共)山田絮州」「寒梅・新島襄」「中庸・元田東野」をそれぞれ精一杯吟唱した。拜殿前の椅子席には多数の一般客の姿が見られ、熱心に耳をけて下さった。

年男・年女

今年の干支は戊子です

詩吟を習って良かった

神田 中村 重泉

謹賀新年
詩吟を習い始めてから六年経ちました。習い事は永続きが正に力です、その意味では、まだたったの六年です。と思うと始めたのが十年程遅きに過ぎたと痛感しています。今仮に七十歳前後なら小学校の課外活動への参加を試みる事が出来ると思いますが……

それでも今年、吟詠を習っていて良かったと実感した事が二つ。一つは勿論健康上の事。肺繊維症にも良く自分の健康のバロメーターにもなっており、癒しの音律は心の平和を取り戻せます。二つ目は、海兵出の大学同期の畏友を今年の春見送る事になった時、お別れの弔辞に「銀鞍白馬武人夢」(瓜生田山桜作)の一節を引用し、以ていささか畏友の青春を追悼出来たと、手前味噌かも知れませんが感じ得た事でした。彼は生前最後の会食で「全てお別れの準備は終わったが、最後に残った弔辞の読み手が定まったので、これほっとした」と言われていただけに思い入れ一入でした。

次男坊会

丸の内第二教場長 山口 隆山

十五年程前から、大学時代の友人、五名でスタートした会が偶々次男坊同志で、そのま、「次男坊会」となり年三回集まり今日に至っている。リーダーが日本橋の老舗店の専務をしていた事もあり、グルメを中心に続いて来た。彼は俳人としても著名で、又あとの三人も趣味の会の会長として活躍している。昨年は、一見さんには仲々行けない店を彼が選び「鮫鱈鍋の店」また浅草の「合鴨の店」へと珍らしいグルメの会が出来た。今年、五人揃って、年男丙子、元気で良き年であるよう祈念し、そして「次男坊会」を更に大事にしたいと願っている。

私の詩吟修得手帳から

ハザマ 一井内 貞壽

私は平成十六年に入会しましたが、それ迄は、昼間人前で歌った事もなく、詩吟について全く無知でした。それに左耳が遠く幾らか不便でしたが、先輩のお誘いに乗りました。ナマの吟を見学し、その魅力に取りつかれました。この年は廿三回詩吟を勉強し、躍進クラブに参加しました。自分の吟を自宅で再生しましたが音程の狂ったメリハリが無いものでした。平成十八年四月迄に詩吟に四一回、躍進クラブには十二回出席し次の様な指導がありました。腹から声を出す、素読百遍、止め等。先輩からは「言葉は短く」「余韻は長く」「口は大きく開ける等です。耳の件で休会しましたが、左耳に補聴器をつけて詩吟が出来る様に成りました。その結果、自分の声が両耳で聴ける様になり、吟にも力強さが出てきた様に思います。これからは地道に発声練習をし、吟の向上を目指したいと思えます。

節目の年に思う

清水副教場長 徳本 順山

私は干支で六回り目の節目の年を迎えます。我家の過去帳を見ると、古稀を元気に迎えた者は少なく、今私が元気に吟を楽しめることを嬉しく思います。私が漢詩に初めて接したのは、新制中学に入学した昭和廿四年頃でした。当時父は実家の座敷を地域の人達に

開放し、柏市に本部がある道徳科学研究所が奨めるモラロジの普及活動に取組んでいました。それは孔子を中心とした儒教の教えでした。その為漢書を出典にしたものが多く引用されていて、子供心に深い感銘を受けたことを覚えていきます。家や国の伝統の尊重、挨拶や長幼の序。仁や恕と言った精神作用及び行為とその結果との間に因果律が存在することなど、今考えると宗家信条「真善美」そのものです。

年女を迎えて

丸の内第一 岩崎 桂山

子供の頃は病弱だった私ですが、三十歳になって日舞を始め、身体を動かす事で健康になり、その後茶道、陶芸と趣味を広げ、今は吟との出会いで多くの友を得る事が出来ました。私のモットーは「進歩は遅くとも何事も長く続けて行く」と常に心しています。平成八年十二月に吟の道に入って諸先生方、先輩のご指導を頂き、今では人前で吟ずる事も出来る様になり、又吟友との楽しい集い、教場“に行くのが楽しみになりました。今の自分の境遇が有難く感謝で一杯、これからも頑張ります。宜しくお願ひします。

六回目の年男
丸の内第二 勝田 賢風

かつて、現職の最後の職務として生涯設計のセミナーを担当していたことがあった。

セミナーの席上、五五歳〜五八歳位の受講者に対し「老人と言われても抵抗を感じない年齢は何歳ですか？」というアンケートを取っていた。九五%の人が七〇歳と答えていた。私も同感だった。

自分自身が、その七〇歳になってみると「何だまだ老人じゃないぞ」と粋がってはみたが、最近「やはり歳だな」という思いと「まだまだ」という思いが交差しつつ、前者の割合が増えてきているようだ。今まで一工程でできたものが二〜三工程かかってしまったり、昨年まで何でもなかった動きがきつく感じたりする度に歳を思い知らされてしまう。

ゴルフや長距離運転をしながら「後何年出来るかな」とか、旅先の長い階段を見上げ躊躇なく登れるのは今年限りか、なんて考える昨今である。

つい泣き言を言ってしまったが、千代田岳精会ではこんな泣き言は通用しない。先輩諸氏の若いこと若いこと。私などはまだ若手とは言いがたいが中堅(?)である。

平成廿年は、福祉・防犯関係で月に二〜三日、長寿会で二〜三日、その他現在の仕事の延長線で二〜三日と拘束されそうだが、下半期からかなりの自由時間が増える予定である。

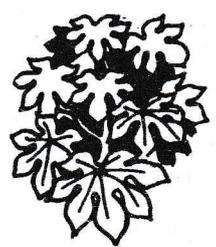
今年は、私にとって入会十五周年にあたる。干支の「子」にも因んで、コマネズミとはいかないまでも精々走り回る所存である。よろしくお引き回し下さい。

年男の夢

新宿 大堀 昭二

詩吟を始めて六カ月です。教場での橋本淳山、酒井帆山両先生の折々の言葉から、自分流の初心者心得四箇条を作りました。

- ① 腹の底から発声を
 - ② 言葉ははっきり正確に
 - ③ 吟は母音の芸術なり
 - ④ 詩心も大事だ忘れずに
- 私は、この四箇条をしつかりと頭に叩き込んで吟ずるようにしています。不思議に気持ち良く詠えるのです。この歳で、詩吟の魅力を発見出来たことを大変嬉しく、また感謝もしています。発声力、節調などなど、まだまだです。身のうちの最適音を見出す旅は始まったばかりです。この大海を自在に漕ぎまわれる吟力を身につけること、これが私の今年の、と言うよりも、次の子年に向けての夢です。



漢詩 (十一)

東陽町 上田 也山

九月九日憶山東兄弟 王 維

獨在異鄉為異客 每逢佳節倍思親

遙知兄弟登高處 遍插茱萸少一人

王維は多才な人で、詩画・書・音楽に才能を發揮し、十五歳で都長安に出ると上流階級の寵児となり、廿一歳で進士に及第し、宮廷詩人として名を馳せ、尚書右丞（書記官長）までなった人物。出自は大原の名門王氏の直系。母も当時の名家崔氏の出で賢母の誉れ高く、特に仏教を厚く信仰、その薰陶は息子達にも及び、後世詩仙の李白、詩聖の杜甫に対し詩仏と称された。この詩の背景にある家族愛や、優しさ、感性はこの環境から生まれたものである。

「意釈」自分一人が故郷を離れ、異郷の旅人となっていて、目出度い節句に出会うたびに、親兄弟を懐かしく思う気持ちにはひとしおである。今日も遙かに思いやる、兄弟達が高台に登り、皆揃って茱萸を挿している中に、自分一人が欠けている情景を。

「考察」この作は題名にある如く「兄弟を憶う」詩である。作者十七歳、科挙試験のため長安に遊学している時、九月九日重陽の節句に作ったものである。前半は一人他郷（長安）にいて旅

人の身である私はこうゆう目出度い節句に逢うたびに身内の者が一層思われてならないと言いう意である。「異郷にあって異客と為る」の異の字の反復はことさらに他郷における孤独感、寂しさがかき立てられようであるし、倍々親をの「倍（ますます）の字“は普段思っている以上に肉親のことが偲ばれると言いう意味が含まれている。少年の感傷が何の気負いも無く詩われている。「遙に知る兄弟高きに登る処」の遙かには故郷大原での事である。九月九日は重陽の節句であり、この日には親類、親しい人が集まって小高い山に登って宴を開く「登高」の風習があったので、その人達が登って行くであろう事を想像する。「遙に知る」は遠いこの地からでもよく判ると言いう意味である。茱萸は和名「かわはじみ」と言いう植物で、重陽の節句頃に赤い実を結び頭に挿すと厄払いが出来ると思われ、重陽の節句には欠かせない植物であった。



二十年度上期本部、千代田行事予定

- 一月三十日 (水) 一吟会 (本部)
- 二月廿三日 (土) 師範研修 (〃)
- 二月廿七日 (水) 一吟会 (〃)
- 三月十五日 (土) 全国吟詠コンクール
- 三月十六日 (日) 全国研修会 (本部)
- 三月廿六日 (水) 一吟会 (〃)
- 四月 五日 (土) 春季吟行会以上
- 四月 廿六日 (土) 師範研修 (本部)
- 四月 廿七日 (日) 千代田昇伝審査 (東郷神社)
- 五月 三十日 (水) 一吟会 (本部)
- 五月 廿八日 (水) 一吟会 (〃)
- 五月 廿九日 (木) 初心者研修会
- 五月 三十一日 (土) 師範研修 (本部)
- 六月 廿二日 (日) 全国吟道大会 (〃)

「新会員紹介」

◇丸の内第一教場 梅宮 康彦氏 (六月入会)

私は、昨年五十有余年の土木屋生活卒業、残軀を暮三昧と念じていたが、大成建設の先輩二神和山氏のご縁で千代田岳精会に推薦を戴き、お陰で漢詩の研鑽、詩吟のご指導をうけ心身昂揚の毎日を楽しく勉強しております。落伍しない様頑張ります。八十一歳です。

◇丸の内第二教場 永長 隆徳氏 (九月入会)

元明治生命の要職にあり、退職後も母校、OBグループの世話役など多忙な日々。昔の同僚吉川龍鐘さんの勧めで教場を見学され、顔見知りも多く雰囲気の良いと入会されまし

た。真面目に吟と取り組む姿勢に感心しています。

辰巳 孝子さん（十月入会）

東陽町に在籍されていたが一年前に退会。今年に入りスポーツクラブで会う田中香風さんに再入会を勧められカムバック。皆勤を続けています。吟友の輪拡大活動の一つの成功例として注目し、期待しています。

岡崎吉作氏（一月入会）

本多凜泉さんの小学校の同級生。浅草で三代続く老舗の染物屋の当主で、国語の教師を退職されてからボランティアで土曜教室を受け持たれています。小唄、ダンス、カラオケと多趣味な方です。

荒井さい子さん（九月入会）

明治生命OG。現役時代営業幹部として高い評価がある方です。会社OB会で菊地駿山さんに勧められ教場見学、本格的な指導と皆さんの親切な心づかいをみて入会を決めました。調布市にお住まいです。

村林美恵子さん（十一月入会）

九月入会の荒井さんと一緒に、会社のOB会で菊地駿山さんに勧められ、教場を見学、温習会にも参加されました。趣味の新舞踊と詩吟に親密な調和があるような気がされたのに加えて皆さんの熱心なお誘いで入会を決められました。

鎌ヶ谷分室

栢崎 秀子さん（九月入会）

萩・植村氏の古い知己、かまがや教室開設以来ご夫婦で後援者です。

ご主人は健康上で退会され、ご本人も健康その他で大変な時期がありました。が、回復され詩吟への関心が一段と深まり正規に入会となりました。人間関係作りは抜群、カラオケはプロ級、コンダクターも始めたいと積極的で、近い将来鎌ヶ谷の幹部にと期待大の新人です。

◇神田教場

本多 京子さん（六月入会）

新宿区発行の広報誌に掲載された神田教場の「詩吟」紹介記事を見て、詩吟は健康に良いと入会されました。現在、東京ガス新宿事務所勤務、現役で活躍、その関係で毎週顔を見せるのは六時。七時半頃まで特別指導を受けています。

◇ハザマ教場

大谷 正昭氏（九月入会）

昨年四月、四十五年の土木技術者生活に区切りがつき、新たな挑戦を考えていた処、萩原先輩よりの誘いを頂き入会。趣味はゴルフ、散歩とスケッチ、料理です。ゼロからの挑戦を選びました。皆様にご迷惑を掛けぬよう頑張ります。難関だった大東京の地下鉄建設工事が懐かしく憶い出される一人です。

犬飼 勇雄氏（十月入会）

ハザマOBの長谷川さんからの熱心なお誘いがあり入会されました。詩吟で大声を張り上げて元気に、そして長生きをしたいと思っておられスキューバーダイビングから大型バイクまで、海から陸と何にでも、手当り次第趣味にしておられます。

◆宮崎 無山氏（ハザマ教場）
十一月六日逝去されました。
享年九十一歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

千代田岳精会弘報紙「ちよだ」が三十号となりました。平成十二年に担当となり、五月の第八号から毎年三回発行してまいりました。二十周年特別号を加えると二十四回、丸八年です。我ながら、よく続いたものと思います。皆様のご支援、ご協力のお陰と感謝しております。頑なに自分の姿勢を守った編集でしたが、私が担当している間このまま続けたいと思っております。この時期は、バブル経済で国民全体が足が地に着いていないような状態から、その破綻で自信喪失の日々。多くの若者が安定した職場と収入を手に出来ず、経済格差が拡大し続けた十年でした。価値観、倫理観の基準が混乱しながら歳月は流れ過ぎて、我々古稀を越えた年代はそのギャップが埋まらず苦勞しています。

「吟友の輪拡大キャンペーン」の成果は各教場で多岐にわたり続いています。もう一度、今後の受入れと指導体制を考え行動に移しましょう。（八田）